

【中國大陸による一方的な航空路線設定への抗議】

今年 1 月 4 日、中國大陸当局が台湾との意思疎通を経ずに台湾海峡上空を通過する複数の航空路線(M503 の北上路線及び W121~123)の通行を一方的に開始したことで、台湾社会に激震が走っている。同路線の通行については、双方の担当部局より成る「空運小两会」が 2015 年 3 月に航空の安全や地域の安定を図ることを目的として「M503」の北上路線通行禁止等を含む一定の取り決めを結んでいたが、事実上中國大陸当局が一方的にこれを反故にした形となった。

事態を受け、台湾では蔡英文総統、行政院（内閣）大陸委員会等が相次いで声明を発表している。概要は以下の通り。

① 航空の安全は国際社会が最も重視する基本的な要求である。それにも関わらず、ある主体が航空路線の通行を一方的に始めることは、航空の安全、地域の安定に対する挑戦であり、破壊である。また、本件からは台湾に対する政治的、軍事的な企てさえ窺われる。

② 台湾は地域情勢への監視能力、防衛力を向上させると同時に、諸外国と緊密な連携を保つことで防衛を強化し、人民の福祉を保障していく。また、国家安全戦略の観点から、「国家リスクの最小化」と「地域間協力の最大化」という戦略目標を達成する。

③ 台湾海峡の現状を一方的に変更しようという行動を国際社会は決して歓迎しない。航空の安全、地域の安定という観点から、本件での台湾の立場に対する国際社会の理解と支持を勝ち取っていく。

④ 中國大陸当局は苦労の末に同意へと至った 2015 年 3 月の取り決めに基づき、今般引き起こされた様々な疑念、不安払拭のため具体的措置を取るべきであり、何よりも速やかに台湾側と対話を再開すべきである。

（参考）2015 年 3 月の取り決め：

台湾の防空識別圏に甚大な影響を与え得る M503 については南下航路のみの通行を認め、W121~123 は通行を許可しない、というもの。台湾の台北市航空運輸商業同業公会、中國大陸の中国航空運輸協会海峡兩岸航空運輸交流委員会が協議し、同意に至っていた。